

第42回横浜労災病院地域医療支援委員会議事録

- 【開催日時】 平成29年7月26日（水） 19:30～20:20
【場 所】 横浜労災病院 管理棟地下大会議室
【司会進行】 恵比須委員長（議事の進行）
事務局次長 深澤（議事以外の進行）
【出席委員】 恵比須委員長 内藤副委員長 山本委員 清水委員
岩田委員 大山委員 山本委員 保刈委員 池谷委員
池谷委員 坂本委員 安江委員 田畑委員
【欠席委員】 原委員

1 開会

2 病院長挨拶

3 議事

（1）委員長・副委員長の選出について

地域医療支援委員会委員の交代があり、新たに恵比須委員、岩田委員、大山委員、安江委員が就任された。これに伴い、平成29年度の当委員会委員長に恵比須委員が、副委員長に内藤委員が選出され、全会一致でともに承認された。

（2）入院・外来患者数等実績報告（平成29年6月累計：連携係長松本より説明）

1 紹介・逆紹介件数（年度推移）

紹介件数及び逆紹介件数（ともに月平均）は、平成25年度1578.4件/1146.3件、平成26年度1611.8件/1212.4件、平成27年度1643.1件/1282.9件、平成28年度1626.3件/1473.5件、平成29年度（6月累計）1696.7件/1496.7件で推移している。

2 紹介率・逆紹介率（年度推移）

紹介率及び逆紹介率は、平成25年度82.2%/49.6%、平成26年度80.3%/60.4%、平成27年度83.8%/65.4%、平成28年度88.8%/80.4%、平成29年度（6月累計）87.8%/77.5%で推移している。

3 入院患者数・平均在院日数

入院患者数（月平均）及び平均在院日数は、平成25年度551.6人/10.6日、平成26年度571.7人/10.7日、平成27年度565.2人/10.5日、平成28年度551.4人/10.3日、平成29年度（6月累計）550.6人/10.2日となっており、平均在院日数が短縮されている。

4 外来患者数（延患者数・実患者数）

外来患者数（月平均：入院中外来患者数/外来時他科受診患者数/実患者数）は、平成25年度1815.8人（218.1人/357.5人/1240.2人）、平成26年度1897.9人（271.7人/403.8人/1222.4人）平成27年度1938.8人（287.9人/409.1人/1241.8人）平

成 28 年度 1907.0 人 (298.6 人/394.1 人/1214.4 人) 平成 29 年度 (6 月累計) 1841.6 人 (307.6 人/375.1 人/1158.9 人) となっている。

5 救急患者数・救急搬送件数

救急患者数及び救急搬送数 (月平均) は、平成 25 年度 2157.4 人/524.3 台、平成 26 年度 2272.7 人/577.5 台、平成 27 年度 2228.5 人/558.8 台、平成 28 年度 2153.2 人/546.8 台、平成 29 年度 (6 月累計) 2006.3 人/523.3 台となっている。

6 即入院割合

即入院割合 (月平均：新入院患者数/救命救急センターを経由して入院した患者数) は、平成 25 年度 33.9% (1580.2 人/535.1 人)、平成 26 年度 33.7% (1620.7 人/545.5 人)、平成 27 年度 34.2% (1636.8 人/559.3 人)、平成 28 年度 32.9% (1630.8 人/536.8 人)、平成 29 年度 (6 月累計) 32.2% (1651.0 人/531.7 人) となっている。

7 分娩件数・ハイリスク分娩件数

分娩件数 (月平均：ハイリスク分娩件数/ハイリスク分娩率) は、平成 25 年度 73.6 件 (12.1 件/16.4%)、平成 26 年度 73.1 件 (13.7 件/18.7%)、平成 27 年度 77.9 件 (14.3 件/18.4%)、平成 28 年度 75.4 件 (12.1 件/16.0%) 平成 29 年度 70.0 件 (16.3 件/23.3%) (6 月累計：29 年度は全体分娩件数が低いため割合が高い) となっている。

8 分娩における診療圏地域別患者構成比

当院の分娩における診療圏地域別患者構成比は、病院所在地である横浜市港北区が 43.3%、横浜市北部医療圏 6 区で約 8 割を占めており、地域の産科医療に寄与している。

9 NICUへの入室経路および転帰先

(単位:人)

	入室経路		NICU	転帰先	
平成 27 年度	母体搬送 (当院出産)	43	267	当院から退院 (GCU 経由)	243
	出産前から当院で フォロー(当院出産)	163		転院	21
	新生児搬送	49		その他	3
	その他	12			
平成 28 年度	母体搬送 (当院出産)	32	212	当院から退院 (GCU 経由)	196
	出産前から当院で フォロー(当院出産)	129		転院	14
	新生児搬送	42		その他	2
	その他	9			
平成 29 年度(6 月累計)	母体搬送 (当院出産)	12	113	当院から退院 (GCU 経由)	100
	出産前から当院で フォロー(当院出産)	89		転院	2
	新生児搬送	12		その他	0
	その他	0		* 平成 29 年 7 月 1 日現在、 11 名が入院継続中	

・入室経路の「その他」は、基幹病院からの転院を指す。

・転帰先の「転院」は、基幹病院への転院及び家族の自宅近くの病院への転院を指す。

・転帰先の「その他」は、小児科病棟への転棟と死亡退院を指す。

(参考) 神奈川県周産期救急医療システム

・「基幹病院」…ブロック内での患者受入の調整を行う。ブロックの拠点として、重症例を中心にあらゆる患者を 24 時間体制で受け入れる。

・「中核病院」…基幹病院の機能を補完し、中等症以上の患者を中心に原則として 24 時間体制で受け入れる。

* 横浜労災病院は中核病院

10 ノバリス治療実績

ノバリス治療にかかる患者数(月平均)は、平成 27 年度 15.4 人(泌尿器科 3.5 人/呼吸器外科 0.6 人/脳神経外科 11.3 人)、平成 28 年度 12.8 人(泌尿器科 4.0 人/呼吸器外科 1.3 人/脳神経外科 7.5 人)平成 29 年度(6 月累計) 17.7 人(泌尿器科 4.0 人/呼吸器外科 1.7 人/脳神経外科 12.0 人)となっている。

11 ダ・ヴィンチ治療実績

ダ・ヴィンチ治療にかかる患者数(月平均)は、平成 26 年度 13.1 人、平成 27 年度 10.1 人、平成 28 年度 8.7 人、平成 29 年度(6 月累計) 13.0 人となっている。

(2) 登録医制度（共同利用制度）の実施状況報告

（連携係長 松本より説明）

1 登録医の登録状況

平成 29 年 7 月 26 日現在、登録医療機関数は、532 医療機関（医科 399 医療機関、歯科 133 医療機関）、登録医師数は、704 名となっている。今年度 4 月以降は、6 医療機関が新たに登録医となった。

2 共同利用の利用状況

（平成 28 年度累計）

（参考 27 年度実績）

C T の検査目的の利用件数	253 件	225 件
M R I の検査目的の利用件数	108 件	112 件
上部消化管内視鏡検査目的利用件数	21 件	21 件
入院患者の共同診療件数	0 件	0 件
図書室の利用件数	0 人	3 人
研修会や症例検討会への参加人数	644 人	645 人

(3) 第 19 回登録医の会 ・ 意見交換会について（報告）

（連携係長 松本より説明）

以下のとおり、第 19 回登録医の会並びに意見交換会を開催した。

- ① 日 時：平成 29 年 7 月 5 日（水）19：30～21：30
- ② 場 所：新横浜グレイスホテル
- ③ 内 容：診療科紹介・意見交換会
- ④ 参加人数：70 人（登録医 18 名、院内職員 52 名）
- ⑤ 備 考：前回より日本医師会生涯教育講座認定

※今回は内科系の講演が無かったためか、登録医の参加人数が前回（33 名）と比べ少なかったが、概ね有意義であったと評判であった。

当院へ予約を取り易くして欲しいとの要望があり、対策を検討することとしたほか、委員より他の行事と重ならないように情報収集をするとともに何らかの配慮をして欲しいとの要望があった。

(4) 第 14 回市民公開講座について（報告）

（連携係長 松本より説明）

以下のとおり、第 14 回市民公開講座を開催した。

- ① 日 時：平成 29 年 7 月 6 日（木）14：00～16：00
- ② 場 所：横浜ラポール（ラポールシアター）
- ③ テ ー マ：知って得する健康講演会

～食の安全とアトピー性皮膚炎のお話し～

- ① 「食の常識！それって本当？～Q&Aで考えてみよう～」

講師：栄養管理室長 長谷部 武

- ② 「アトピー性皮膚炎って治るの？」

講師：皮膚科部長 齊藤 典充足

- ③ 参加人数：151 人

今回の講演会は、広報よこはまやタウンニュース、町内会回覧板等で周知した結果、多数の参加者があり、「わかり易かった。」などの多くの意見を頂いた。

また、田畑委員からは、次回の講演会においても役所の広報への掲載協力のお申し出を頂いた。

(5) 質疑応答・意見交換

(池田委員) いつも労災病院にはお世話になっている。特に意見はない。

(大山委員) お産をやっていない産科の診療所があり、お産だけを病院に依頼することもあるが労災はできるのか。

回 答→ 受け入れしている。

(山本委員) 労災の救急搬送件数が6月累計で減少しているが、救急自体が減少しているのか。それとも周囲の病院の受け入れが進み労災の件数が減ったのか。

回 答→ グラフでは救急車の搬送件数は減っているように見えるが、7月について救急患者数は増加している。又、救急車を利用せず来院する救急患者や小児患者の影響があると考えられる。

(清水委員) ダ・ヴィンチの治療成績について月平均では年度で減っていることもあるが、当初計画通りかあるいは術者の関係で変動しているのか。

回 答→ ほぼ想定の範囲内である。減っているように見えるが29年度の3ヶ月の実績より増加している。

(保刈委員) 労災の港北区における歯科登録医は72名である。歯科医師会では在宅の口腔ケアに力を入れている。労災が地域で研修会を開催して頂ければ登録医が増えるのではないかと。今後とも宜しくお願いしたい。

(池谷委員) 労災の歯科口腔外科の逆紹介率が低いことについてどうしてなのか。

回 答→ 当院に紹介される歯科の病状はほぼ診療所での診療が終わり、抜歯の依頼が多く、次の治療が必要な患者が極めて少ないことで逆紹介に影響している。

(田畑委員) ハイリスク分娩について、港北区は高齢の初産が非常に多く、NICUの患者も多いと考えられる。これからも協力をお願いしたい。

(安江委員) 労災の救急搬送件数は下がっているように見えましたが、港北消防の上半期の救急総件数については過去最高を更新している状況であります。

(坂本委員) 呼吸器の吸入指導について、労災の市民講座でアトピーにステロイドを使用して安心であると講演して頂き素晴らしい取り組みと思う。また、平成31年度に向けて病院と薬剤師の連携が必要になるため協力をお願いしたい。

(内藤副委員長) 人口の増加により紹介・逆紹介が増え、高齢者人口の増加により高齢者の救急もまた増えている。それを支える地域医療包括システムにおいて中間施設が不足している。苦勞していることがあれば意見を出して頂きたい。

意見→ 家族がいないことで高齢单身や高齢者だけしかいない世帯がいる。
また、救急において訪問看護サービス等を利用してなんとか在宅で支えられている患者もいる。先生方の協力をお願いしたい。

(近藤委員) 先日、横浜市でメディカルコントロール協議会が開催された。そこで消防局からの意見だが、高齢者施設からの依頼が増えている。労災病院の救急搬送の現状を教えていただきたい。

回答→ 労災では高齢者に限った救急搬送の統計はしていない。患者の病態があり受け入れしてみないとわからない。ただし、他院で 3 回以上断られた患者については受け入れており、年齢だけの優先的な判断はしていない。

4 閉会

(事務局からの説明)

次回以降の開催について、書面開催 2 回、委員招集 1 回を考えている。委員会招集日程は追って通知する。